

(4) 後川中学校

学 校 長 田辺 長美
校内研究代表者 松下 佳那

1. 研究主題

「自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成」
～キャリア教育の視点で行う授業改善～

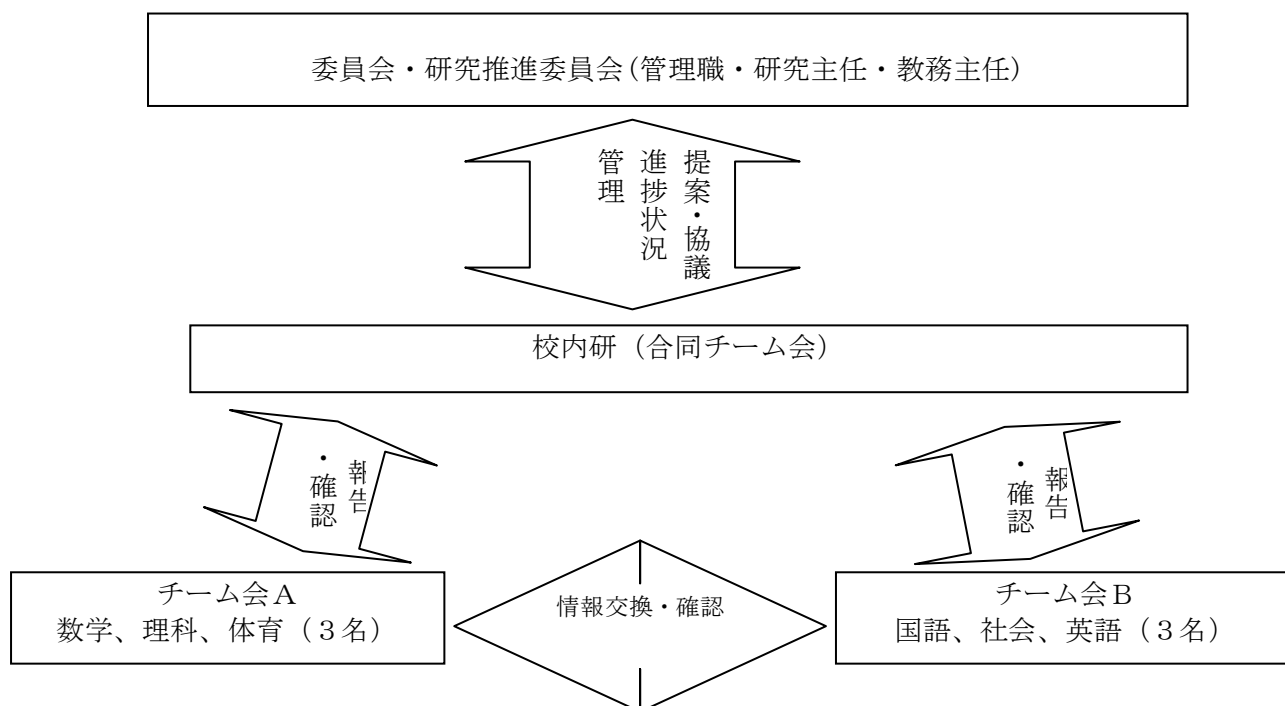
2. 研究主題設定の理由

本校の課題は「主体性」と「表現力」。良さは、学年を越えて仲が良く、見通しがもてることには一生懸命取り組もうとするまじめさ。自尊感情が大きく向上し、どのような場面でも協働できる生徒集団に育っている。そこで、「見通しをもつ力」と「やりぬく力」を高めることで主体性を高めることを目指しサブタイトルを設定した。実態や課題を把握させ、目標を明確にもち（目標設定）、どうすれば目標を達成できるかの見通しをもち（計画）、最後までねばり強くやり通す（実行）力をどの生徒にも付けていきたいと考える。小中合同でキャリア教育を柱として研究を推進することで、小中連携もさらに強まると期待される。

3. 研究の進め方と方法

- (1) 校内研修日を水曜日に定めて、年間計画に沿って研修をする。なお、第3週の水曜日は職員会とする。
- (2) 教材研究のため、自己研究の日を月に1回程度設定する。
- (3) 全校研究授業は1人1本とし、5教科は改善プランの授業公開と兼ねる。指導主事を招聘し、チーム会での指導案検討と模擬授業を経て、研究授業と協議において助言指導をいただき、全員が授業改善につなげられるようにする。

《 研究推進組織 》



4. 具体的取り組み

(1) 授業改善＝学力向上

①研究授業 事前（指導案検討会⇒模擬授業）⇒事後（協議・各自の授業改善）

第1回 5/29（水）2年国語「クマゼミ増加の原因を探る」

第2回 6/9（水）全校体育「陸上競技（走り幅跳び）」

第3回 7/14（水）1年社会「巨大な人口を支える農業と多様な民族」

第4回 10/4（月）1年数学「方程式」

第5回 11/4（木）1年英語「Unit7 Foreign Artist in Japan」

第6回 11/26（金）1年理科「身近な物理現象 光の性質」

②帯タイム・7時間目

- ・各学年15分間の後川タイム。期末テスト週間は全学年が7時間目(50分)を設定。
3年生は11月第3週から週に4日の7時間目(50分)の授業を実施。

③合同チーム会

- ・1学期の総括を受け、課題克服を目指すチーム会での意見交流を毎月実施。

④自己研究

- ・年間7回の自己研究を実施し、それぞれの課題や研究に向けての取組を行う。

⑤その他

- ・専門部 昨年度から専門部「まな部」「こころ部」を「生活学習部」に統合・再編成し、教員だけでなく、生徒にも学力向上とそれを支える仲間づくりや基本的な生活習慣、環境整備について考えさせる。

(2) 仲間づくり

①生徒会活動

- ・生徒会主催の全校レク（意見箱の活用）
・バースデーサプライズ、クリスマスレク

②人権集会

- ・学級での話し合い⇒全校での発表、人権作文、SCによるエクササイズ

③その他

- ・総合的な学習の時間（ライトアップ・霜月祭）

(3) 小中連携

①合同校内研・参観週間

- ・年3回の小中合同校内研を実施し、夏にはオンデマンドを活用し、全員でチーム学校の視点から協働性・同僚性の構築力向上及び、組織力の向上のため「みんなの学校をつくるために」という動画を視聴して研修を行った。研究授業の日程を共有し相互に参観し、小中の教科の系統性についても教員が学習する必要性についても確認した。秋の合同参観週間や霜月祭での交流を図った。

②系統表・キャリアシートの活用

- ・小中9年間で育てたいキャリアに関する能力を系統表にまとめ、小中の教員全員で確認した。小中ともにキャリアシートは年間計画に位置付けて活用するようにし、どのシートを次年度に引き継ぐかについても、大枠を確認し合った。

5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

①評価指標での数値結果

- 授業力チェックシートの平均 3.6
- 学習状況アンケートの全項目平均 3.4 肯定評価 90.1%

②考察

・授業改善のテーマは「対話的な活動」であり、少人数での「対話」を目指し、研究授業ごとに検証し、改善プランでの助言等も活かしながら、「自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成を」を追究した。研究授業後に行う授業力チェックシートの全教員の平均も96.8%の肯定評価である。常に「対話的であること」を念頭に置いて授業が行われ、「お互いの考えを工夫しながら学び合う」姿勢や工夫が定着していると考えられる。また、生徒においても授業だけではなく各行事や総合的な学習の時間の取組でも振り返りの時間を確保し、生徒自身に書かせたり発表させたりした結果、学習状況アンケートにおいて、学んだことを次に活かそうとする「汎用性」が100%、「対話」も91.7%の結果だった。その他も、7項目のうち5項目が肯定的評価が90%以上となっている。

- ・生徒の授業アンケートでも、全ての項目で3.8以上の評価である。
- ・学習状況アンケートも4月当初と比較すると全ての項目の平均が3.0→3.4に向上した。特に「課題の解決に役立つ情報かどうかを考えながら、情報を集めることができる」3.7「友だちと話し合う活動を通じて、自分なりの考えを深めたり、広げたりすることができる」3.8「授業で学んだり取り組んだりしたことは、他の授業や普段の生活の中でも生かすことができる」3.7の項目が非常に高い。

(2) 課題

①評価指標での数値結果

- キャリア形成に関するアンケートの全項目 平均 3.4
- 授業アンケート全項目平均 平均 3.8

②考察

- ・キャリア形成に関しては、基本的な生活習慣の身の回りの整理整頓が弱い。課題対応能力での「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」、あるいは自尊感情の「私は、周囲の人の役に立っている」の項目に課題が見られたが、今年はこれらの項目は向上している。行事や総合的な学習の時間で達成感や充実感が向上した要因であると考えられる。
- ・同様に昨年に続き、「地域の活動（季節の行事や地域での清掃など）に参加している。」「机やロッカーなど身の回りの整理整頓をしている」に課題が見られる。
- ・学習状況アンケート「黒板の内容をノートなどに写す時は自分なりに工夫して書くことができる」2.7「理由を示すなどして自分の意見をわかりやすく相手に伝えることができる」3.0これらの「書くこと」「話すこと」の領域については、本校の課題でもある。県版学テの結果（自校採点）からも記述式問題の平均以上を目指すためには全教科で根拠・説明を書く、発表することを授業で仕組む。さらに、主体的に取り組み、表現力の向上を図れるようなめあてを設定する。また、「理由を示してわかりやすく伝えること」を学校生活の中のあらゆる場面で、全教職員が意識して生徒と接することで「話すこと」の領域の向上につながると考えられる。

